

# No.13. コロナ禍の今、高齢者の在宅支援を行うために ケアマネが出来る事

梅寿荘在宅介護支援センター

山角由紀代・林田左知子

## 1.背景

新型コロナウイルス感染が拡大し、奈良県内でも感染者が増加してきており、医療機関でも逼迫してきている。感染防止対策として手洗い・うがい・マスク装着・消毒等、誰もが心がけている中、万が一コロナが発生した場合、訪問や通所サービスを利用しないと生活が維持できない高齢者が存在する

## 2.目的

今後の感染拡大を想定し、利用者が従来の介護サービスを受けられなくなった時、その生活を支えるためにケアマネージャーが準備しておくべきことは何かということを検討する

## 3.方法

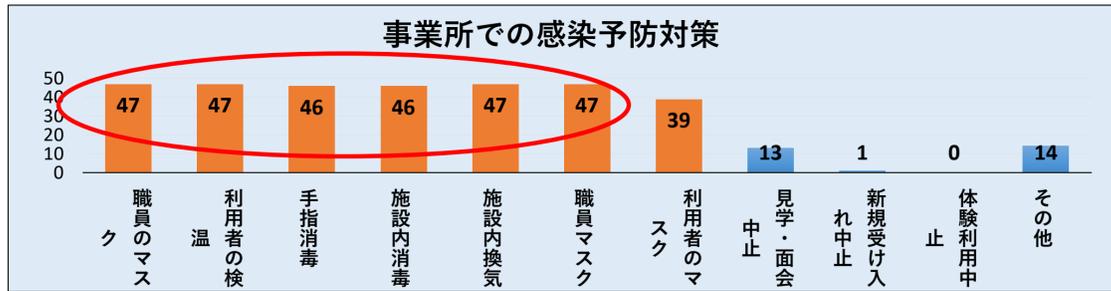
各事業所の取り組みや今後の対応策などについて下記のサービスに対して項目でアンケートに協力していただく。

通所型(デイサービス・デイケア・ショートステイ) :36事業所

訪問型(訪問ヘルパー・訪問看護・訪問リハビリ) : 11事業所

## 4.アンケート内容・結果 (通所型と訪問型事業所 計47事業所)

問1

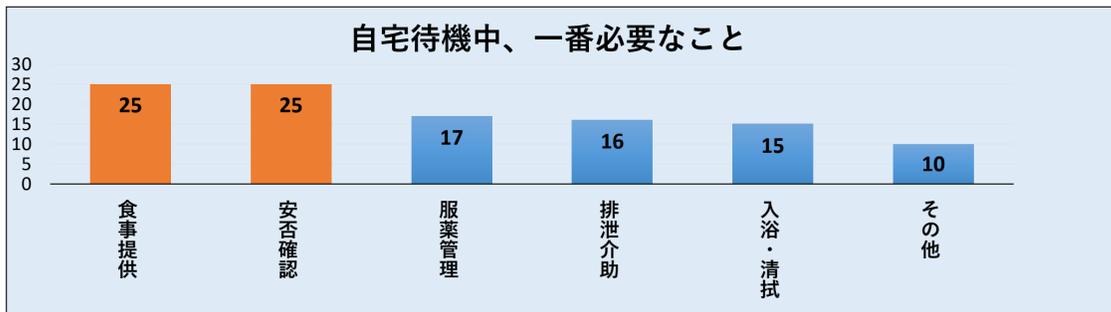


### 結果

ほぼ全ての事業所が  
**検温・マスク装着・消毒・換気**  
感染防止対策が出来ている

・利用者のマスク装着は、疾患により出来ない場合がある

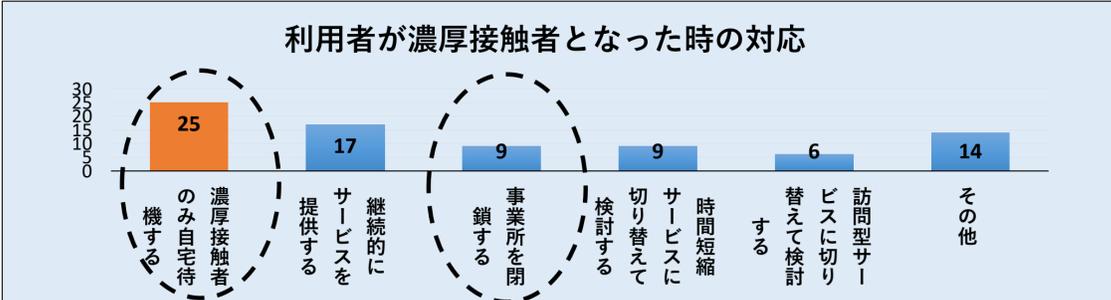
問2



### 結果

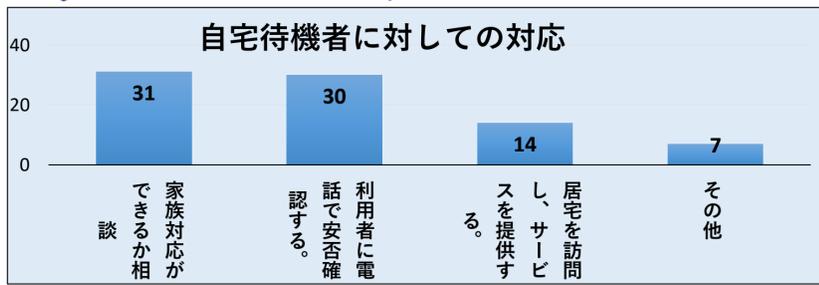
①食事提供②安否確認が半分以上占めており  
**生活の基本となる割合が高いが**  
生活環境が異なるので優先順位を決めることは難しい  
その場合、ケアマネの判断が必要

問3



### 結果

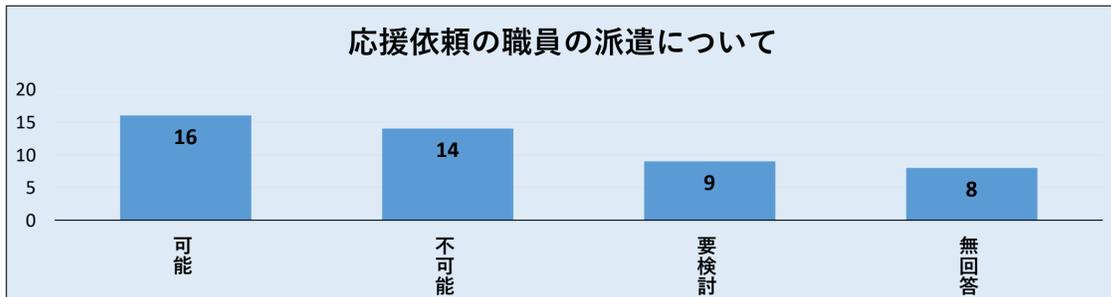
左記に分類されるが利用者の状態によって利用するサービスが違うため、決まった対策が取れない  
**保健所の指示を仰いでサービス提供を検討**  
①自宅待機  
②介護サービス継続



### 結果

家族対応出来るか相談・電話での安否確認・訪問型切り替え含め  
**対応できる支援方法の検討が必要**

問4



### 結果

応援可能：16 応援不可能：14  
前向き検討：9 無回答：8  
**各事業所内で人員不足もあり、十分に協力できる環境となっていない**

## 5. 今後の取り組み

利用者の心身の状態や生活環境によって支援方法が違ってくる。自宅待機となった場合、通所型を訪問型のケアプランに変更する等の代替サービスの確保を検討していくことが必要である。普段利用している通所型(デイサービス・デイケア・ショートステイ)の職員が利用者宅を訪問し、排泄介助、安否確認などの利用者が必要とする支援を提供することが出来れば、普段からなじみの関係にあるので、利用者の不安の軽減にも繋がると思う。その為には、各事業所間での密な連携を図り、サービスの調整をおこなう事と、介護保険以外の地域資源を利用し、直接顔を合わせなくても安否確認できる方法を検討していく必要がある。

【アンケート集計】

